

3D P V C 装飾パネル「3D ウォリス」

取扱い説明書 施工マニュアル

取扱い説明書（注意・禁止事項）

3D P V C パネル「ウォリス」の意匠面は、塩ビフィルム「リアテック」が特殊技術加工で貼られている為、下記の行為は

絶対に行わないでください。

① 意匠面へのカット加工

フィルムの剥離、基盤クラックによる割れを惹き起こします。

② 意匠面への貼り加工

セロテープ・ガムテープ等を貼りつけると剥がす際、意匠面装飾フィルムが剥離する原因になります。

③ 意匠面への熱加工及び直射日光の当たる壁面への設置

変色・変形・剥離の原因になります。

④ 意匠面への塗装

変形・剥離の原因になります。

⑤ 乱暴な取り扱い

投げる・ぶつける・落とす等の行為は意匠面の破損を惹き起こします。

⑥ 清掃は水で希釈した中性洗剤を使用

3D WALLISE は、表層面に塩ビフィルムが貼られている為、シンナー・トルエン・ラッカー等有機溶剤を使用した場合、変色・変形・剥離の原因になります。

意匠面の掃除は、乾いたウエス等で、ホコリ除去して下さい。また、汚れのひどい部分などは、ウエス等に水で希釈した中性洗剤を浸しつけて、汚れをふき取って下さい。シンナー・トルエン・ラッカー等を絶対に使用しないで下さい。

⑦ 施工マニュアル以外での設置施工方法

3D PVC装飾パネル「3D ウォリス」は意匠面が最大の特徴としている商材ですので、決して意匠表面部分※から釘・ビス等を打ち込まないでください。また、施工マニュアルを正しくご理解の上、施工して下さい。

(※ネイルピンは必要ですので、以降の説明書をよくお読みし、施工してください。)

施工マニュアル

施工に必要な副資材

- ① アクリル系又はポリエチレン系接着両面テープ
推奨材 3M社製 β -4481MH、
3M社製 スコッチマウントMI X-313
- ② 変成シリコーン樹脂系接着剤
- ③ ネイルピン（長さ40mm以上、太さ0.6mm）

施工手順

I 「3Dウォリス」を設置施工する盤面（壁面）の水平（平滑さ）の確認をします。盤面（壁面）が、極端に凹凸がある場合、パテ等で平滑修正します。パテ施工後、接着補強の為、プライマー・シーラー等を塗布して下さい。

II クロス・塩ビフィルム・塗装等が施工してある盤面（壁面）に剥離等の疑いがある場合、修正・修理をしてから、平滑確認を行い「3Dウォリス」の設置施工を行って下さい。

① クロス・塩ビフィルムが盤面（既存壁面）に貼られている場合

「3Dウォリス」を設置する部分にクロス剥がれが全く無い事が確認できた場合のみ、指定副資材を使用して設置施工して下さい。但し、特殊表面加工してあるクロス・塩ビフィルムには、指定副資材では固定設置出来ないものもありますので、その際にはクロス・塩ビフィルムを盤面（既存壁面）から剥がし、盤面（壁面）に残った裏紙の浮き等の暴れをパテなどで無くし、平滑かつ垂直面状態でプライマー・シーラー等を塗布して下さい。塗布後、オープンタイムを置き、プライマー・シーラー等が乾燥硬化した状態になってから指定副資材を使用し、設置施工して下さい。

② 塗装が盤面（壁面）に施工してある場合

「3Dウォリス」を設置する部分に塗膜の剥がれが全くない事が確認できた場合のみ、指定副資材を使用して設置施工して下さい。但し、塗膜強度の信頼性が低い場合、その塗料に適したシーラー等を塗布して、盤面（既存壁面）硬化させてから指定副資材を使用し、設置施工して下さい。

Ⅲ 設置盤面に「3Dウォリス」の【設置レベル出し】をレーザー等で出します。

「3Dウォリス」は2通りの設置方法があります。

- ① 「3Dウォリス」小口面ピッタリ付けて連結設置する場合
- ② 「3Dウォリス」小口面に目透しを入れて設置する場合

①の場合、盤面（壁面・天井）は、四方に「3Dウォリス」の「設置レベル割寸の端数」が発生する場合、四方均等に目地テープ（3D WALLISEと同じ色のフィルム）を3Dウォリス**設置施工前**に貼ります。

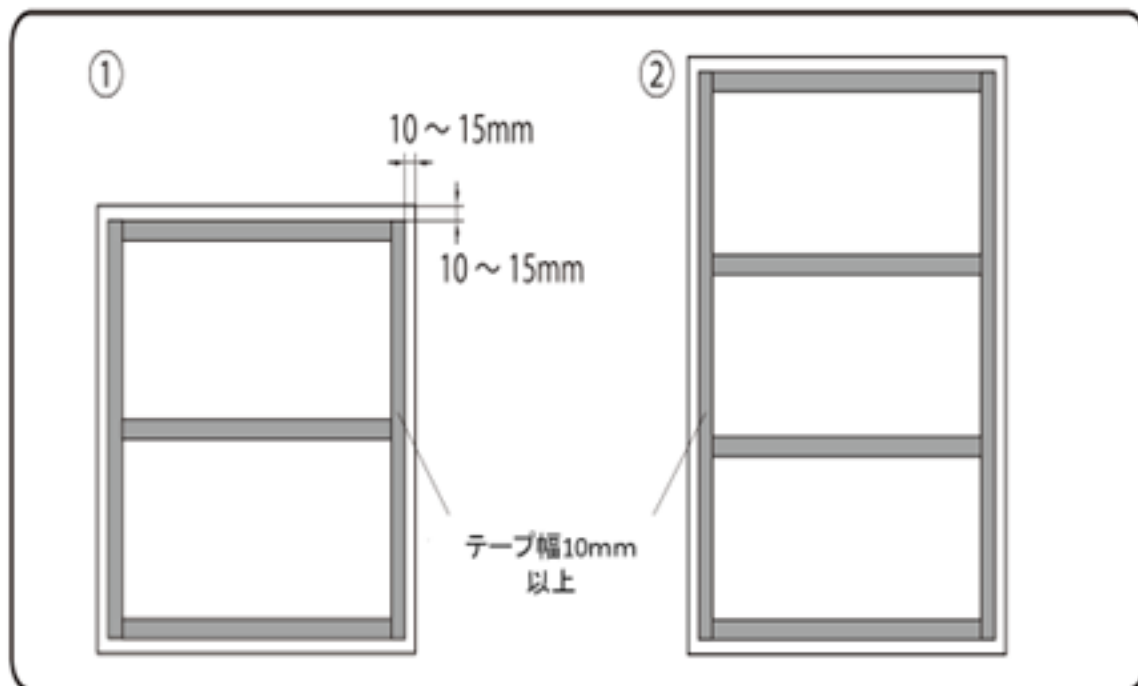
リアテックフィルム施工方法は（株）サンゲツのリアテックフィルム見本帳を参照して下さい。

③の場合、目透しを入れる位置に目地テープ（3D WALLISEと同じ色のフィルム）を**設置施工前に貼ります**。この場合、目透しを入れる幅、例えば目透しを15mm幅入れる場合、目地テープは50～100mm幅程度の帯状に切った同じ色柄のフィルムを目地位置の中心、100mm帯の中心に合わせて貼っていきます。縦目地と横目地の重なる部分はクロス同様、重ね切りするか、又は、重ねたままで目地テープ施工を全て完了させます。重ね施工にする場合、色・柄で「重ね」が目立たない方向で施工して下さい。

IV 「3Dウォリス」の裏面に、仮止め用アクリル系接着両面テープを貼ります。

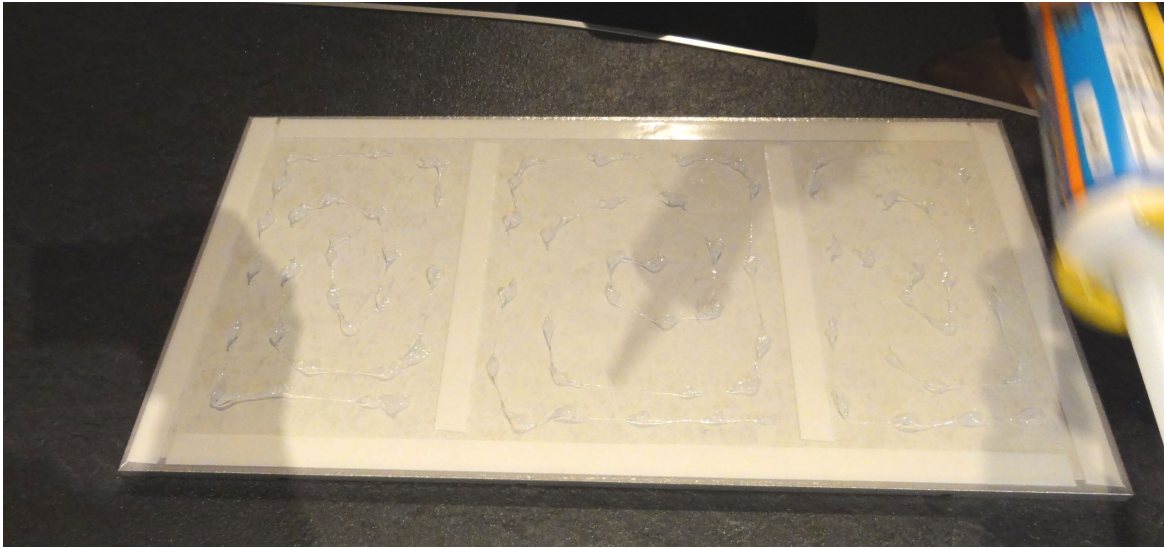
① 3Dウォリス「450×450」の場合、裏面の四方縁から10mm～15mm内側に、幅10mm以上の仮止め用アクリル系接着両面テープを四方縁に沿って内側に貼ります。この際、縁ぴったりに貼ってしまいますと、**両面テープの「厚み」が見えてしまいますので、必ず10mm以上内側に貼って下さい**。また、四方縁中心にも1本貼ります。漢字「日」の形の様に貼って下さい。

② 3Dウォリス特注品を制作した場合で細長い場合も同様に、四方内側に2本貼ります。漢字の「目」の形の様に貼って下さい。



V 「3Dウォリス」の裏面に接着材を付けます。

仮止め用アクリル系接着両面テープの盤面（壁面）に接着させる側の離型紙を剥がす前に、変成シリコーン樹脂系接着剤を仮止め用アクリル系接着両面テープの内側面積部分に、塗布して付けていきます。この際、変成シリコーン樹脂系接着材を仮止め用アクリル系接着両面テープ粘着層に付けない様に注意して下さい。仮止め用アクリル系接着両面テープの「粘着効果」を失う恐れがありますので、変成シリコーン樹脂系接着材を塗布した後に、両面テープ離形紙を剥がす事をお勧めします。



(両面テープ離形紙は、接着剤を塗布した後剥がす)

VI 「3Dウォリス」を設置します。

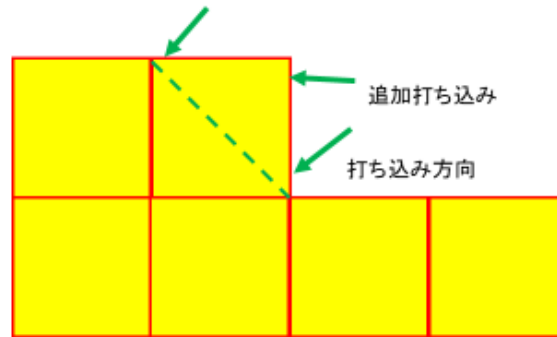
設置レベル通りに貼り設置します。この際、アクリル系接着両面テープの粘着は大変強い為、一度接着しますとやり直しができませんので、細心の注意をして下さい。

VII 必要に応じてネイルピンを打ちます。

【壁面・天井面に対する設置施工】

- ① ネイルピンは小口の厚み部分（6mm～12mm厚）より30度前後の角度をつけて、打ち込んでください。基本的に小口一辺に対し1本、計4本打ち込みますが、突きつけ設置の場合、パネルを積み重ねていくので、小口2辺に打ち込んでいきます。

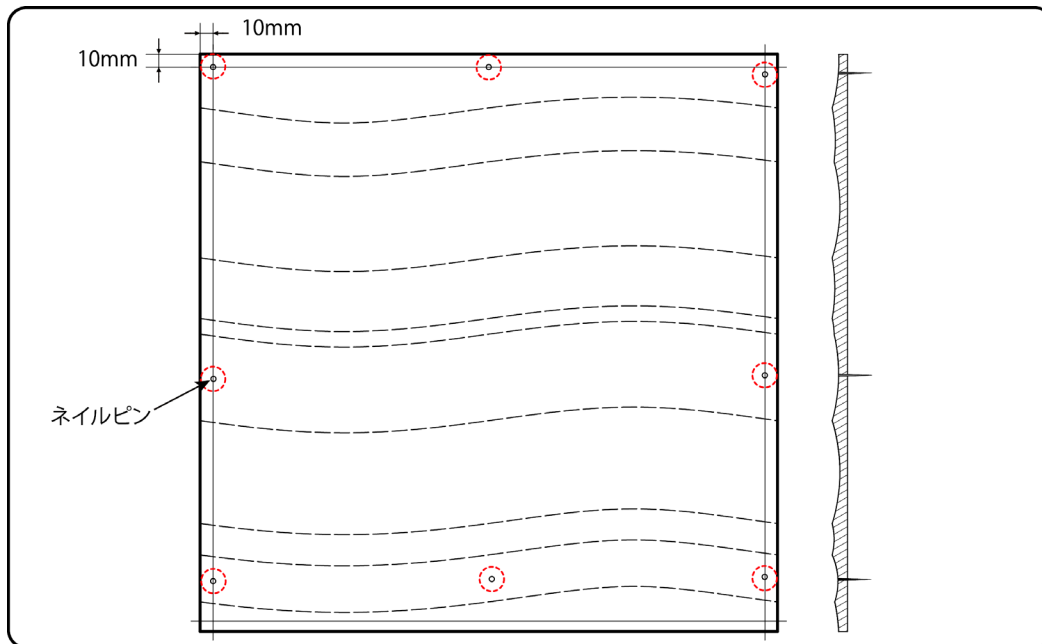
突きつけ設置の場合 ← の印が付いている
小口面にしかネイルピンが打ち込めないので、
2辺のみ、打ち込みます。
打ち込み位置はできるだけ、対角線上に近い部分に
打ち込んで下さい。不安がある場合、追加で数本打ってください



②特に天井部や90度以上斜めにせり出している壁面部は、
変成シリコーン樹脂系接着剤が硬化するまでの間、アクリ
ル系接着両面テープのみでの設置では脱落の危険がありま
すので、ネイルピンを打ち必ず設置補強してください。ま
た、最後に設置する部位のパネルは小口からピンを打ち込
めませんので、目立ちにくい意匠正面の「窪み」部分から
打ち込みます。

③天井部の最後のパネルや90度以上斜めにせり出している
壁面部に対する最後のパネルに対するネイルピンの打ち方

意匠面の窪地（削ってある意匠面溝の比較的目立ちにくい色
柄のところ）に60～80度前後の角度をつけて、打ち込んで下
さい。意匠面際から10mm内側一辺につき、1本です。つ
まり、450×450の場合4本打ち込みます。



【参考ピン打ち図 赤丸部分 任意4か所】

設置場所により設置施工方法が異なる場合がありますので、ご不明な点がございましたら、お問い合わせください。